

# バレリアナ根乾燥エキス Valeriana off. Rad extr. s. sicc.

## I. “Phu/Nard”⇒“Valeriana (健康・光・美)”⇒“Valeriana officinalis L. (科学的有効性)”

Phu 悪臭 Nard アロマ

- ① *Phu vulgare*
- ② *Phu magnum*
- ③ *Nardus celticus*

Valere 健康 Balder 光と美

- ① *Valeriana officinalis* L.
- ② *Valeriana dioscorides*
- ③ *Valeriana celticus*

“All Heal” 快眠・目覚めのシンボル

日本薬局方第 13 改正より  
④ *Valeriana fauriei* Briquet  
国策カノソウに限定

有効性が裏付けされた薬用ハーブ  
① *Valeriana officinalis* L.

### ▶【Phu/サンスクリット Nard: 臭いとアロマのハーブ】

動悸、消化器障害、てんかん、尿路感染、不眠等に利用  
・ヒポクラテス(B.C460-370)  
・ディオスコリデス(A.C40-90)  
世界最古の薬学書「De Materia Medica」に  
“Phu”として記載

### ▶【10 世紀 Valeriana: 健康・光・美のハーブ】

Isaac Judaeus 「De diaetis」に「Valeriana」として記述  
・ Valere(ラテン語): 健康と価値あるもの  
・ Balder(独逸語): 光と美の北方の神 (Odin の息子)

### ▶【今日の Valeriana: 裏付けのある快眠と目覚めのハーブ】

- ★ 医薬品公定書への収載
  - ・ ESCOP(2009) ・ EMA(2006)
  - ・ ヨーロッパ薬局方(2014) ・ 日本薬局方※
- ★ 利用実績
  - ・ 独、伊、仏、露、豪など世界各国で医薬品として利用
  - ・ 日米で安眠サブリの定番成分
  - ・ 日本薬局方※
    - 第 8 改正 欧州カノソウと国策カノソウが同種で記載
    - 第 9 改正 欧州カノソウと国策カノソウが異種であることが判明。*Valeriana fauriei* Briquet と命名。
    - 第 13 改正 国策カノソウ(*Valeriana fauriei* Briq.) に限定。 「適用: 催眠鎮静薬」
- ★ 裏付けされた有効性(ESCOP2009, EMA2006)
  - 「適用: 緊張の緩和、入眠困難の軽減」

## II. バレリアナ根乾燥エキスの特徴

- ★ 原料: オミナエシ科 カノソウ属 の欧州バレリアナ(*Valeriana officinalis* L.) の新鮮な根茎
- ★ 標準化された製造工程: PIC/S GMP 工程管理、ISO9001 取得植物抽出物専門工場にて製造
- ★ 指標成分による品質管理: Valerenic 酸 (VA として) 0.5%以上  
精油 0.3%以上  
Valerenic 酸類(VA, AcetVA, HydrVA として) バッチごとに定量
- ★ 抽出溶媒: 70%EtOH
- ★ 用法用量 13 歳以上: 当社乾燥エキスとして 1 回 200~600mg  
緊張、不安、興奮: 上記 1 回量を 1 日 3 回まで服用  
睡眠導入: 上記 1 回量を就眠 30 分~1 時間前までに服用
- 3~12 歳: 体重に応じて大人量から求めた量を服用する。
- 3 歳未満: 服用を避ける。(ESCOP2009)
- ★ 包装形態: 1 Kg Net 包装 20 / 25 Kg Net 包装



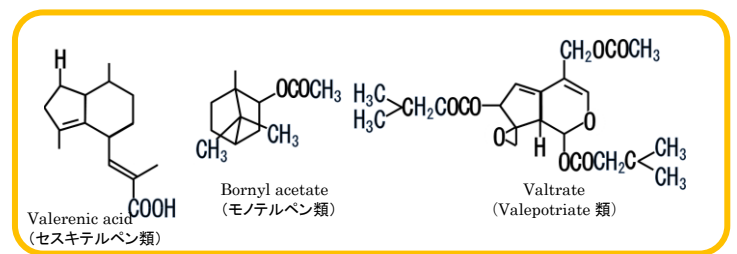
アスク薬品株式会社

〒272-0138 千葉県市川市南行徳 3-15-6  
TEL : 047-399-7598 FAX : 047-395-1831  
URL: <http://www.askic.co.jp> E-mail : [info@askic.co.jp](mailto:info@askic.co.jp)



## III. バレリアナ根と成分

- ☆ 精油
  - モノテルペン類 (bornyl acetate, camphene.)
  - テルペン類 (valerenal)
  - セスキテルペン酸類 (valerenic acid)
- ☆ valepotriate 類 (valtrate, acevaltrate)
- ☆ その他 芳香族炭酸、GABA、glutamine など



### 悪臭(Phu)と芳香(Aroma): 悪臭と芳香は表裏一体

- ★ バレリアナ根は、その臭いから魔除けとして、また反対に香気を楽しむアロマとして利用されてきた
- ★ イソ吉草酸: バレリアナ根の悪臭の素で悪臭防止法の対象物質
- ★ イソ吉草酸エチル: イソ吉草酸のエチルエステル、リンゴの香りの香料として食品添加物に指定  
イソ吉草酸のカルボン酸の「H」をエステル化することで悪臭が芳香に変化
- ★ 精油成分: 水蒸気蒸留などで取り出され「バレリアナの香り」としてアロマテラピーで利用される。  
鎮静、中枢神経の抑制、催眠、穏やかな鎮痛、鎮痙、ふけ防止、利尿、殺菌、駆風、血圧降下等
- ★ エキス、精油成分: 濃度を薄めることで食品フレーバーとしても利用される。  
アルコール飲料(96.1ppm 以下)、焼き菓子(94.3ppm 以下)、

参考文献 小林彰夫/齋藤 洋著  
天然食品・薬品・化粧品品の事典

### ★ valepotriates と毒性

毒性が比較的強いといわれる valepotriate 類は、欧州バレリアナの乾燥根には 1%、インドバレリアナには 3~6%、メキシコバレリアナ 5~8% 含有されます。  
ESCOP、EMA、Commission E では欧州バレリアナ(*Valeriana officinalis* L.) を医薬用に定めています。  
LD50: 欧州バレリアナ EtOH 抽出物 3,300mg/kg (マウス腹腔内投与) 参考文献 ESCOP2009  
メキシコバレリアナ抽出物 30mg/kg (マウス腹腔内投与)

## IV. バレリアナ根と薬理試験および臨床試験(ESCOP2009)

### ☆ In vitro 試験

- ① 神経シナプス結合部における GABA 異化作用を阻害<sup>1)</sup>
  - ② シナプス連結部における GABA の取り込み阻害と放出促進<sup>2)</sup>
- 他に GABA<sub>A</sub>、睡眠と関わり深いセロトニン、メラトニン受容体への親和性も報告されています。

抑制性神経伝達物質 GABA の濃度を上昇させることで鎮静作用を誘起することが示唆されています。

参考文献 1) Plant Med 1982;46:219  
2) Arch Int Pharmacodyn 1994;327:220

### ☆ In vivo 試験

- ① 投与量依存性の自発的運動能力の低下(マウス腹腔内投与)<sup>1)</sup>
- ② チオペンタール誘導の睡眠時間延長(マウス腹腔内投与)<sup>2)</sup>
- ③ 中枢神経抑制作用(ラット腹腔内投与)<sup>3)4)</sup>
- ④ 筋弛緩作用(ネコ経口投与)<sup>5)</sup>

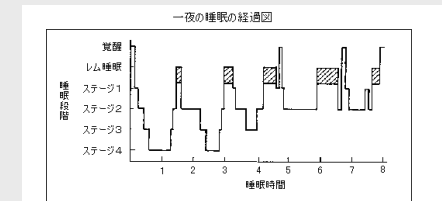
In vivo 試験でも鎮静効果が報告されています。

参考文献 1) Hangers handbuch der Pharmazeutischen Praxis, 5ed V.6:1994:1067  
2) Arzneimittelforsch/Drug Res 1993;43:638 3) Dtsch Apoth Ztg 1988;128:2041  
4) Dtsch Apoth Ztg 1986;126:2249 5) Med Welt 1980;31:982

### ☆ 臨床試験: 1982~2004 年に 16 件の臨床試験結果が報告されています。

⇒ バレリアナ根製剤は、睡眠後の休息感と満足感の向上が期待できることが確認されました。

- ① 睡眠潜時(就床~睡眠ステージ I の時間)の短縮
- ② 睡眠ステージ I の減少
- ③ 徐波睡眠(睡眠ステージ III、IV)の延長
- ④ 睡眠時間の増加と睡眠の質の改善が期待されます。



参考文献 Plant Med.1985; 54: 144 Pharmopsychiatry 1994; 27: 147  
Med.Welt 1984; 35: 1450 Psychopharmakotherapie 1996; 3: 109

## V. バレリアナ根と薬物相互作用(ESCOP2009)

「バレリアナは、in vivo 試験により薬物代謝酵素シトクローム P450(CYP2D6, CYP3A4/5, CYP1A2, CYP2E1)に代謝される合成医薬品(ミダゾラム、クロルゾキサゾン)と併用しても、有意な相互作用は認められなかった。

参考文献 Cin. Pharmacol Ther., 2005;77(5):